



TANKA - COCKTAIL

～カクテル短歌作品集～

「パイプのけむり」さんへ



Nov.15, 2014

カクテル短歌in宇都宮

TANKA - COCKTAIL

～カクテル短歌作品集～

秋山生糸

稲泉真紀

うた猫

ガラケー太

気球

きつね

倉野いち

河野麻沙希

黑夜行

小早川

さくらべに

しゅうゆか

スコラブ

鈴木麦太朗

高島津諦

天国ななお

ナイス害

新名リオ

野添まゆ子

のの

日高香織

麦野結香

悠



秋山生糸

徹夜してきみの名前のカクテルを考えてみたこんな朝焼け
はつきりと決めないことも許されてゆつくりと飲むキールロワイヤル

うた猫

◎ギムレット

ギムレット 遠く離れた君想うピリツと辛い恋に酔う夜

◎ブルームーン

「好きです」の答えに青い月を指すあなたの真意はどちらでしょうか

◎カンパリオレンジ

初恋は甘酸っぱくてほろ苦い雫となつて水面を揺らす

みなも

ガラケー太

シェーカーを振る腕ならば負けないが顔だけトムに少し負けてる

「苦いのも美味く感じて大人だよ。」シャンディガフを片手に語る

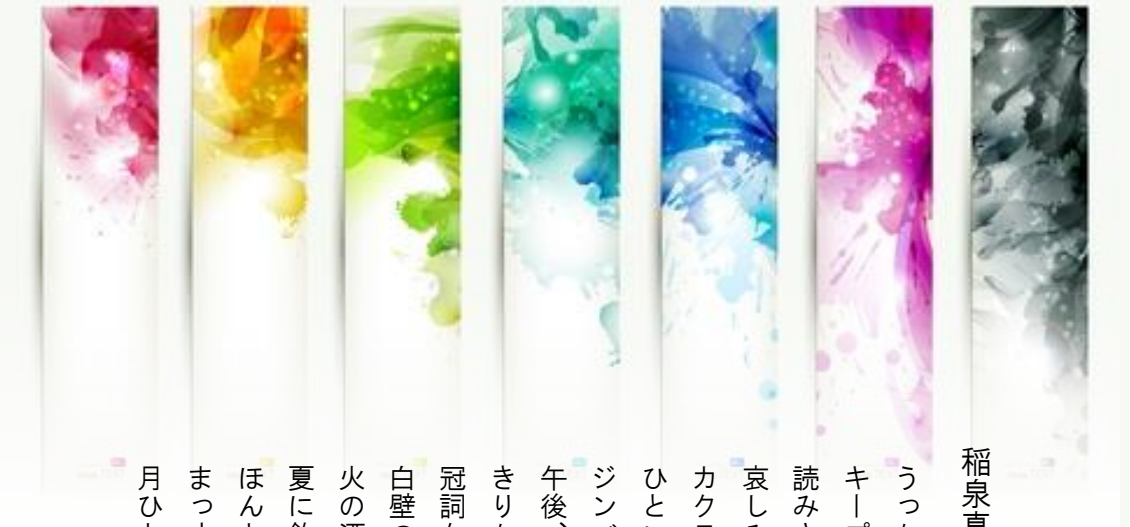
初めてのディスコにいろんな期待してジントニックが1杯飲めた

グラスには赤いルージュとマンハッタン濡れた瞳でチェリー転がす

確信に近い予感で戻る席紫煙、マティーニ、君だけいない

バブリーな学生時代のバイブルにEOTDOGとハートカクテル





稲泉真紀

うっかりと春のきざはしおりてきてキルシュみたいな匂いをさせる
キープしたボトルにつけた名を忘れあざやかすぎるボンベイサファイヤ
読みさしの村上春樹をしのばせてカクテルよりは焼酎がよし
哀しみの輪郭たどる舌先に溺れてしまうファジーネーブル
カクテルの名前知らないあの頃のわたしに贈る白い秋桜
ひといきにソルティードック飲みほせば二楽章からはじまる組曲
ジンバツクひといきに飲み結論をもちこしにするうすぎり檸檬
午後、きみのインディゴブルーにさらわれて円卓におくドライマティーニ
きりかえの簡単すぎる週末にカルーアミルク飲みほしている
冠詞なき^{冠詞}あふれきてくちびるのかたちになれるカクテルグラス
白壁の女でありし季すぎてきみにあずけるキューバリバー
火の酒をたらししてみせる雨ならばいつもの店のあの席にいて
夏に飲むアイリッシュコーヒー 極端に関係性がわからなくなる
ほんとうと嘘をまぜたる話にて二層のままのカクテルグラス
まっすぐにつながる夜はしなやかにブルーハワイの抒情したたる
月ひとつ孕んでいたかもしれぬ夜にスノータイプの白きカクテル



気球

(支配するようにあなたは話すのね)シャンパンブルースうん、聞いているよ
灰皿で燃やすおもいで薄明かりソルティドッグの粒の一粒

きつね

カクテルに浮かんだレモンを沈めつつ下弦の月が上がるのを待つ
他愛ない話ばかりで盛り上がる ブルームーンを飲んでる君と

倉野いち

むずかしいことは聞きたくない夜のカシスオレンジただただ甘い
勢いで迎えに来てつて言いたくてわざと飲み過ぎて帰ったりした
「とりあえず」ジントニツクを頼むからこれが大人なのかって思った
甘い言葉でごまかし続けていて欲しい カルーアミルクの不透明さよ

河野麻沙希

飲んでやる飲んでやるともあたしには苦くないからカンパリオレンジ
有り得ないあり得ないからこんな時ブルームーンがないお店とか
促され微笑んでからうつむいて「カシスオレンジ」今日も完璧



黒夜行

錆びついたシェイカーを振る祖父の手は祖母の手にまだ触れるつもりで
カクテルにならないワシはオッサンに呼んでもらえるまで待っている
ハイボールのフリで飲みつつ泣く人のジンジャエールに溶かせない嘘
魂の傷口に塗るカクテルは君の知らない名で呼ばれてる

小早川

フォーカード 涼しい顔の人殺し ウオッカマティーニ、ステアしないで
抜け出して初めてなつた二人きり 夜に溶けないブラックルシアン
本当はずっと見てたと低い声 カシスウーロン 顔が赤いよ
甘すぎるゴッドファーザー、からり鳴る 君の匂いが消えそうになる
トニックがはぜてライムと混ざりあい 君と僕ほど白くならない

さくらべに

白緑の別離を告げたギムレット今さら胸をキリキリ棘さす

しゆうゆか

背伸びして 一口飲んだ カクテルに 君を映した 眼球疼く

見上げれば ブルームーンが 舞っていた 秋の夜空の 孤独に似合う

ウィンクと フリルを武器に いざ出陣 私を導け コスモポリタン

大人びた 横顔だけを 覚えてる 温もり知らぬ ウィスキー色

晩秋に 似合う貴方の ジャケットに 灯す祈りを 飲み干したいの

スコラブ

きまぐれなひとに 一口盗まれたソルティードッグに残る三日月

鈴木麦太朗

むらさきの空をひらいてゆくひかり。 月の光をグラスにそそぐ

夕霧のようなカクテルのみほして君はふわりとあこがれを言う

さらさらとコスモポリタン注がれて昼と夜とのすき間はみちる

ワルサーを腋にかくしているさまに琥珀色したカクテルをのむ





高島津諦

◎コスモポリタン

全世界政府の夢は現実のアルデヒド基に接合さるる

◎ブルームーン

横顔に月を宿したその人をブルーアースに押し倒し闇

どこことなくソルティドッグにアジシオを使ってそうな顔のバーテン

天国ななお

初めてのお酒はゴッドファーザーで気取ってみても殺られてました

想い出をふる手のなかの二杯めのジントニックの氷が解ける

カクテルはゆるくてダメというヤツにロングアイランドアイステイーを

ナイス害

企みのミモザ片手に倒れ込みスーツの黒が怪しく光る

新名リオ

赤上げて（もう撫でないで）白上げて　かりんとまわるまあるい氷

ふりむいてひやりと笑う蛇だった男が舐めるグラスホッパー

金色の音に揺られて待っているゴッドファーザー傾けながら

野添まゆ子

探偵にコートと煙草とギムレット持たせたチャンドラーに乾杯

のの

出逢いとは必然らしい　すべてそうバニラに零すこのモヒートも

日高香織

くたくたのボルサリーノでくたくたの父さんが飲むゴッドファーザー

麦野結香

知っているブルームーンは頼まない　静かに笑う二度目の満月が

つき

いつの世もレディーキラーは幻想だひとりであるブラックルシアン



悠

川端ではしゃぎまわった青春が色気づいてラム・コークになる
「そうですか」「ああありがとう」「だから何」確信したよルシアンが合う

颯爽とブルー・ムーンを頼むならすみれの海に沈んでしまおう

熱れ過ぎた涙を2滴啄んで陽気に笑うイエロー・パロット

負けたとか怒鳴られたとかいいからさ飲んで見たいゴールデン・ドリーム

人魚舞い甘く微笑むブルー・ハワイ哀れな僕は溺れるままに

入り口でバサツと雪を落としてる君にグロッグを作って待つ

幻想じゃないかのように語る君はそう愛すべきコスモポリタン

クローバー・クラブをそっと飲む君の指の光よ永遠であれ

はじまりの頃の想いを手に込めて君に捧げるアレキサンダー





TANKA - COCKTAIL
～カクテル短歌作品集～

発行：2014年11月15日
企画：河野麻沙希(@kikilalaaiko)
秋山生糸(@kiito25)

※掲載作品の著作権は各作品の著作者に帰属します